

HEAD 研究会総会 & シンポジウム 2019

■開催日時 2019年5月28日(火)

総会: 16:00-

総会シンポジウム: 17:45-20:15

懇親会: 20:20-21:00

■開催場所 3331 Arts Chiyoda



■タイムスケジュール

2019 総会 @B111

16:00-17:20 総会

2019 シンポジウム @ コミュニティスペース

17:30-17:35 開会挨拶

17:35-17:45 来賓挨拶

17:45-17:50 趣旨説明

17:50-18:20 第1部: discussion

18:20-19:00 第2部: keynote presentation

19:00-19:10 休憩

19:10-19:50 第3部: discussion

19:50-20:00 閉会挨拶

20:00-21:00 懇親会

平成のHEADから令和のHEADへ。 HEADはよりに向かうか。

総会シンポジウム2019 趣旨、テーマ

第一部:

ディスカッション / 平成のHEADを振り返る

登壇者: 松永, 松村

震災の年に一般社団法人として産声をあげたHEAD研究会。東京大学・松村秀一教授が提唱した七つの予言を起点に、その後TF活動は、その守備範囲の拡大とともに活動内容も質だけでなく量も毎年拡充してきた。一方で8年間を振り返ると、各TFの活動内容は毎年拡充してきたという評価の一方で、過去のアジェンダに対する一定の到達感や達成感の元に一般社団化当初には確かなコミットを持って参加をしていたメンバーの参加動機の低下や活動からの距離感の置き方に、活動の熱量自体が低下しているのではないかと漠然とした不安、危機感を感じる機会が少なからずあった。第一部ではHEAD「創設期の課題設定とビジョン」にフォーカスし、創設時のオピニオンリーダーがその時の背景や思いを振り返る。

第二部:

令和の時代の先駆けを垣間見る

登壇者: Kota Alex Saito

キーノートプレゼンテーションとして在エストニアの若手起業家であるKota Alex Saito氏を招き、デジタル化社会の未来像を垣間見る。デジタルライゼーション社会の先駆であるエストニアの現状、さらになぜ自らのスタートアップの場としてエストニアを選んだのかといった話題を語っていただく中で令和の時代に向けたヒントを見出す。

第三部:

令和のHEAD。そのゆくえ

登壇者: 松永, 松村, 宮崎

一部、二部の話題を受け、令和の社会、その時代、社会においてHEADがめざす方向を、松永安光氏、松村秀一氏、宮崎晃吉氏が「新旧の知見を集めて」語る。変えないこと、変えるべきことを議論しながら、令和のHEADのゆくえ、方向感を総会の参加者全員で共有する時間にしたい。

デジタル化社会の未来像を垣間見る

スペシャルゲスト

…Kota Alex Saito

ハワイをルーツに持つ慶應義塾高等学校、慶應義塾大学卒業の24歳。2016年~ウクレレ片手に、これまでに40カ国超を訪れた「ウクレレバックパッカー」。日本に帰国した現在は外資系企業で働く傍ら、ライブ、撮影、旅人カウンセリング、Instagramブランディング等、総合的にアーティスト活動を行っている。



エストニアはそもそも建国の時点でのリソースがかなり限定されていました。環境のせいにせず、少ないリソースでいかに工夫するかが国民の考え方の根底に根付いています。社会構造の変化によって、建設・不動産も産業の持続可能性を高めるためにはICT導入や制度の更新による産業の効率化が不可欠です。そして、そのために必要なソフト、ハードのインフラ整備を以下に推進するか、という観点に興味が集まってくるはず。在タリンのSaito氏に、デジタル化社会の先進国エストニアの透明性を重視した施策や、少ないリソースで生産性を高めるための創意工夫といったエストニアのマインドセットの部分を受け取ってください。

